

戸山ヶ原（その3）

期せずして3月風邪を拗らせ、社会保険中央総合病院に約10日ばかり入院しました。この病院の所在地は百人町三丁目、正しく昔日の『戸山ヶ原』の一角です。



百人町三丁目のマンション
(病室の窓から3月撮影)

戦前この場所には陸軍の技術本部、科学研究所が道路と並行して建ち、更に病院から山手線の向こう側には陸軍の実弾射撃場があつてコンクリートの蒲鉾型をしたドームが列を

並べて建っていました。そのドームを囲むように通称『三角山』と呼ぶ盛土をした山がありました。戸山ヶ原に行く唯一の目的はこの三角山に登るのが目的で登ったり滑ったり、日が西の方に落ちる頃夕焼けの富士山を見、泥だらけになって帰ったあの頃が懐かしく思い出されます。

そして今、病室から窓外を見ると且ては广大で何の建造物も無かつた原っぱには高層マンションや住宅が立ち並び、赤土で埃っぽい昔の姿は寸土も見出だす事は出来ませんでした。

3月2日この戸山ヶ原住宅団地に高田馬場と東中野を結ぶバスが開通し、ますます昔日の面影が消え行くように思われます。



戸山ヶ原（その4）

隣の新宿区上落合1丁目に、『上落合郷土史会』と

言う会があります。過日、その定例会で「戸山ヶ原」の話が出ま

した。その第1の話が「三角山」。前号で記述した通り射撃場を遮る為に造られた人工的な山で、高さは約30m、戸山ヶ原のシンボルの存在でした。次に話題になったのが、野球の話。戸山ヶ原は大部分が平坦な原でしたので、休日には草野球のメッカとなり、随所にネットが張られ、地元チームのユニホームを着て競技を楽しんでいました。しかし戦時色が強くなるにつれ、軍隊の演習の他、軍事的な施設も次々と作られるようになりました。また、戸山ヶ原の変わった一面は、軍馬の集積場になった事です。当時、馬は運搬の手段として貴重であり、各地から徴用された馬がこの戸山ヶ原に集結し、軍馬として戦地に送られて行きました。

現在はどうかという、百人町と言う歴史的な名前こそ残っていますが、昔日の姿はありません。人口は一〇二八三人（平成14年5月1日現在、新宿区調査）。バスも通る大住宅団地に変貌しました。



三角山
濱田熙氏 記憶画『戸山ヶ原』より